

## 「環境まちづくりプロジェクト」第2回ミーティング議事録

日時：平成28年5月14日(土) 14:30～17:00

場所：ブロッサムカフェ 3F ルーム A

出席者：竹原，山崎，越智，佐野（代理：吉田），溝渕，多田，濱砂，谷口，岡田，松井，麓，河井，高野，柳原，田中，中田，野田，河上，高橋，水越，江口，日高

配布資料： 1) 平成28年度学内研究助成金 交付通知書  
2) 「環境まちづくりプロジェクト」キックオフミーティング議事録  
3) プロジェクトメンバーの研究紹介文  
4) 岡田先生，高橋先生 講演資料

※予算資料については，別途メールにて配布

14：30～15：00 プロジェクトリーダー挨拶および今後の活動について

理工学部 竹原幸生教授

15：00～15：45 話題提供1 「近代水道遺産の可能性～都市のアイコンとクロス セクション～」

理工学部 岡田昌彰教授

-- 15分休憩 --

16：00～16：45 話題提供2 「商学から考えるまちづくりとその課題」

経営学部 高橋愛典教授

-- 15分休憩 --

17：00～19：00 懇親会（3F ルーム B）

軽食，立食形式，会費 2000 円

1.

理工学部竹原教授より，本プロジェクトが学内研究助成金に採択されたことが報告された。

研究課題：文理協働による環境まちづくりプロジェクト

課題番号：KD06

研究種別：21世紀研究開発奨励金【共同研究助成金】

交付額：H28年度-1,800,000円；H29年度-1,620,000円；H30年度-1,540,000円

本プロジェクトの今後の方針が，理工学部松井准教授より提示された。「まちを知る」，「まちを創る」をキーワードにした研究や活動を推進し，東大阪地域への提言や実践に繋げてはどうか。また，まずは構成メンバー間の交流を深め，交流を通じて浮かんだアイデアを「研究コア」のシーズに繋げていく。また各メンバーの専門分野での成果を，ホームページ等を通じて積極的に宣伝しながら，プロジェクトメンバーが提供出来る専門知識を発信していくことが提案された。

次に，理工学部竹原教授より，大学という利害関係の間柄であることを生かして，忌憚のない意

見交換を進めたいこと。近隣自治体や企業には卒業生が多く在籍していることを生かして、積極的に連携を進めたいこと。また前回の会議で意見が寄せられていたように、大学院生や学部生にも積極的に関与してもらい、実地教育の場としたいとの説明があった。

理工学部麓准教授より、予算の配分についての説明がなされた。キャンパス毎に会計をお願いしたいこと、また必要な予算については柔軟に対応したい旨が説明された。

参加者からは、プロジェクトとして大型外部資金の導入に繋げていくことも提案された。この点については、今後情報を集めながら準備を進めていく予定である。

## 2.

研究交流を目的として、2名の先生による講演が実施された。

まず、理工学部 岡田教授より「近代水道遺産の可能性～都市のアイコンとクロス セクション～」と題してご講演いただいた。日本各地に都市のアイコンとして遍在する近代水道遺産の紹介からはじまり、都市のクロスセクションとして地形や地理的な特徴を生かして水道事業が発展してきたいきさつを、和歌山市や鹿児島市を事例に紹介いただいた。また現在参画されている金沢市末浄水場を例に、ランドスケープ遺産として近代水道遺産が持つ可能性を紹介いただいた。

次に経営学部 高橋教授より「商学から考えるまちづくりとその課題」についてご講演いただいた。最初に高橋先生が交通や流通に興味を持つようになったいきさつから、現代の商学の成り立ちまで、現在の研究されている内容の背景を明解に解説いただいた。多岐にわたる研究の中から買い物弱者と物流観光、さらに大阪の間屋街でのまちづくりについての興味深い研究例をご紹介いただき、今後の展望として、商学体系の再構築を通じたまちづくりの可能性をお話いただいた。

両講演とも会場から質疑予定時間を越える多くの質問やコメントが寄せられて、大変な盛り上がりを見せた。また懇親会でも、引き続き両講演を元にした意見交換がおこなわれていた。

## 3.

メンバー相互の交流を目的に、ルーム B にて懇親会が催された。18名の先生にご参加いただき大変な盛り上がりを見せた。また盛況のため発生した2,000円の余剰金については、次回の懇親会に充てる。

記録者：松井 一彰

プロジェクト代表者：竹原 幸生

プロジェクト代表者：久 隆浩